

フランス語インテンシブ 3 シラバス

慶應義塾大学 SFC 2012 年 秋学期

インテンシブ3は、インテンシブ4へと学び続ける展望の中で、基礎を固めながら中級レベルに入っていく段階です。ここを甘く見て疎かにすると、将来にわたって、ご愛敬程度のいい加減なフランス語しか身につけません。入門期の「教えてもらう」という依存的な姿勢をきっぱりと脱して、強い主体性のある学習者となる人と、そうでない人の間で、決定的な差がついていくのがこの時期です。フランス語学習において、今や「攻め」に転じましょう！ もっとも、焦りは無用です。大事なのは、着実にたゆまず勉強すること。そうすれば必ず結果がついて来ます。

インテンシブ3の目安としての到達目標は、DELF のB1資格取得、仏検2級合格、そしてTCFで300-399点程度のスコアを得ることができる実力を獲得することです。これは正直なところ非常に高い目標ですが、部分的にでも達成してほしいものです。

インテンシブ3では、コース別に2クラスを編成します。

学生諸君には、自分のフランス語学習の目的を見据え、自分の適性や学習スタイルを踏まえて、予めA・Bクラスのいずれかを選んでいただきました。それぞれ、希望したクラスに登録されているはずです。

クラス	火曜・水曜	木曜・金曜
A	両クラス合同コア授業 (基本的な文法の理解と総合的演習)	「読み書き」に重点を置くコース別授業
B		「話す・聞く」に重点を置くコース別授業

■ コア授業： A・B両クラスの履修者へ

火曜日と水曜日の授業は A クラスと B クラスの合同で、インテンシブ3のコア授業を行います。2つのコースの共通の幹を成す授業だと理解してください。読む・書く・聞く・話す力を総合的につけることを目指しますが、火曜日と水曜日は区別をせずに行います。しいていえば、火曜日は文法の基本的な項目を中心に学び、翌水曜日にはその応用練習をすることが多くなるでしょう。火曜と水曜の授業は密接に関連しあって構成されています。

1. 教科書

Grammaire Progressive du Français (Niveau intermédiaire) Nouvelle édition,
CLE international

各自 SFC 生協にて購入して下さい。価格は 3000 円を少し上回ります。

この教科書に関する解説や録音は以下を参照。

資料：<http://s186577248.onlinehome.fr/vincent/intensif3/>

2. 担当教員

火曜2限 古石篤子

水曜2限 ヴァンサン・デュランベルジェ (Vincent DURRENBERGER)

3. 授業スケジュール

扱う項目は次のように予定していますが、場合によって幾分の変更もありえます。

週	扱う文法項目
1	復習、フランス語の5文型
2	代名詞(1): 形と位置 代名詞(2): <i>en, y, le</i>
3	所有代名詞 指示代名詞 ジェロンディフ
4	過去時制(1): 複合過去形 態: 受動態
5	過去時制(2): 複合過去形／半過去形／大過去形
6	時の表現 間接話法(現在)
7	関係代名詞: <i>qui, que, dont, où, le quel</i>
8	未来時制: 近接未来形／単純未来形／前未来形
9	条件法と仮定表現
10	間接話法(過去)
11	接続法(1)
12	接続法(2)
13	論理的関係
14	期末試験ほか

4. 成績評価

- ・ コア・クラスの持ち点はインテンシブ3全体の50／100点です。50点のうちの20点が期末試験、15点が古石の授業に関する評価、15点が Durrenberger の授業に関する評価に割り当てられます。
- ・ 期末試験は1回だけ行い、両教員が合同で出題します。追試はありません。

■ 読み書き重点コースの授業:Aクラス所属の履修者へ

木曜日と金曜日は、コース別の授業を行います。フランス語の文章に向き合うことによって、知的で厳密なフランス語への習熟を図るのが、読み書き重点コース(Aクラス)の本旨です。

インテンシブ3から4へと継続して、フランス(語圏)の文化や社会に関する知見を深めつつ、複雑な構文を苦にせず、さまざまなテーマ研究の中で出会う文献・資料を正確に読み取る力、自分の思考内容を明快に記述する力、つまり、単なる会話を超えて中身の濃いディスカッションを行う際の基礎になるような堅固なフランス語力を養っていきましょう。

1. 教科書

KRISTOF, Agota: *Analphabète, récit autobiographique*, Carouge-Genève, Ed. Zoé, 2004 を、1学期間にわたって貸与します。授業開始後、音源も配布します。

2. 自習教材

『1からはじめるフランス語作文』山田博志、F・ヴィラン共著 白水社
各自生協で購入して、金曜日の授業には持参すること。

3. 担当教員
木曜 1 限:塩田明子
金曜 2 限:山根祐佳
4. 学習のリズム
テキストの各章を基本的に次のプロセスを繰り返すことで、教材の各章を基本的に消化するとともに、応用力を養っていく。

教科書の各章を基本的に次のプロセスを経て消化する。
1) テキストの構文と意味の理解、補足説明、応用練習、前章の理解度チェック、書き取りテスト(担当:塩田)
2) 文法・統辞法のポイント説明、および演習、自習教材に関する注意・指示、和文仏訳テスト(担当:山根)
5. 授業スケジュール(暫定。幾分の変更はあり得ます。)

週	インテンシブ 3 (Aクラス) 週ごとのテーマ
1	(導入)
2	<i>Début</i> □ □,
3	<i>Début</i> □
4	<i>De la parole à l'écriture</i> □ <i>De la parole à l'écriture</i> □
5	<i>De la parole à l'écriture</i> □ <i>Poèmes</i> □
6	<i>Poèmes</i> □
7	<i>Poèmes</i> □ <i>Clowneries</i> □
8	<i>Clowneries</i> □ □
9	<i>Langue maternelle et langues ennemies</i> □ □
10	<i>Langue maternelle et langues ennemies</i> □ <i>La mort de Staline</i> □
11	<i>La mort de Staline</i> □ □ □
12	<i>La mémoire</i> □ <i>La mémoire</i> □
13	期末試験

6. 成績評価
コース別授業に対応する点数は、インテンシブ 3 全体の 50/100 点です。
平常のテスト(およそ 30 点)と学期末試験(およそ 20 点)の結果にもとづき、担当の2教員が総合的に各履修者の成績を評価します。

■ 話す・聞く重点コースの授業:Bクラス所属の履修者へ

木曜日と金曜日は、コース別の授業を行います。話す・聞く重点コース(Bクラス)では、徹頭徹尾、音声言語としてのフランス語をへの習熟を図ります。

話題の文脈や場の状況に応じてスピーディに会話に加わり、聞き取りやすい発音と適切な表現を駆使して筋の通った意見を述べることができるような、自己表現能力・実践的な口語コミュニケーション能力を養っていきましょう。

1. 機材
podcast で全ての教材をダウンロードできます。
ダウンロード用 URL: <http://frfp.sfc.keio.ac.jp/#2> から、インテンシブ 3 用のアイコンをドラッグ&ドロップし、自分の i-Tunes に登録するだけで操作が完了します。ビデオ版と音声版の 2 種類があります。わからないことがあれば、この件に関しては國枝孝弘(kunieda@sfc.keio.ac.jp)まで連絡してください。

2. 担当教員

木曜2限: ジャメル・ラバイ

金曜2限: パトリス・ルロワ

3. 授業内容

毎回、どの教員が担当する授業の場合も、以下の4つのアクティビティをおこないます。

なお、授業中は基本的に、筆記用具の使用は許されません。履修者は、説明を聴いてノートを取りながら頭で理解していくというタイプの学習をするのではなく、身体的に言語運用を実践しながら音声と音声の組み立て方を身につけていくことになります。

- ① 予め配布しておいたフランス語の文章(テキスト)を履修者一人ひとりが暗誦する。各学期中に、比較的平易なテキストと比較的難しいテキストをとりまぜて、1週間に1つずつで計12のテキストを扱う。各テキストは単純なフレーズから成り、いくつかのキーワードを含んでいる。履修者は毎回、暗誦できるように用意して授業に臨むとともに、そのテキストについて論拠のあるコメントを準備して来ることとなる(20分余)。
- ② DVDに録画されているCMを材料とする描写・聞き取り、言い換え(ex.現在形を過去形に転じる)、ヴァリエーション(ex. もとのCMの改変を想像し、条件法で語る)の演習(20分余)。なお、おそらく授業時間外に2人1組でCMを作ることとなり、それも評価対象となる。
- ③ 口述描写の演習。毎週、4つの対象をオーラルで描写する。1学期12週間の授業で計48の対象を取り上げることとなる。この演習をとおして、さまざまな言い回しが身につく、ある程度長いフレーズを用いることにも慣れていく(20分余)。
- ④ 「ドラマトロジー」(これは造語)と称し、スタニスラフスキー・システムと呼ばれる演技理論にもとづき、寸劇的なやり取りを実践する。ここでは、言語だけでなく、身体表現も大きくものを言う。リアルな状況の中での自発的・即興的な口語コミュニケーションの演習(20分余)。

4. 成績評価

ふだんの教室活動を評価します。いわゆる学期末試験は行いません。但し、学期末に近づけば近づくほど、その学期中の積み上げが評価対象となります。たとえば、学期末には、授業で扱った計12のテキストをすべて、いつでも暗誦できることが求められます。口述描写についても同様です。

■ 出席について

「出席点」はありません。出席それ自体は、成績評価においては考慮しません。

しかし、1回、2回と欠席して休み癖がついてしまえば、学習の積み重ねができず、たちまち遅れをとって、結局脱落するということ、また、ただ漫然と、毎回受け身の態度で出席していても、語学は身につかないということ、予習復習が絶対的に必要だということを強調しておきます。

■ Conférence / Grande Rencontre

今学期はレクチャーを2回とla Grande Rencontre(インテンシブフランス語を履修している学生が一同に集まる会です)を1回予定しています。

- ・
- 10月10日(水) la Grande Rencontre
11月13日(火) Conférence de civilisation 1: 杉原賢彦(映画評論家)
「フランス / 映画 / 社会～映像が映し出したフランスとそのイメージ」
12月13日(木) Conférence de civilisation 2: Florian AUBRY(SFC 講師)
「La Réunion って、フランス？」

- ・Conférences, Grande Rencontre は、インテンシブコースの一環です。履修中の他の授業と時間帯が重ならないかぎり、出席必須。
- ・Conférences, Grande Rencontre の日は、インテンシブの通常の授業は行いません。
- ・時刻・場所は後日、メールおよびフランス語セクションのホームページで明示します。

■ マルチリンガル・スペース

メディア・センター2階に「マルチリンガル・スペース」(通称 MMLS)があるのを皆さんは知っていますか。その空間には、CD-ROM、CD、ビデオ、雑誌、新聞、辞書、参考書(仏検、DELFF・DALF 参考書も)などフランス語の勉強に必要なものが揃っています。

また、フランス語共同研究室隣のλ309にもフランス語版 MMLS がオープンしています。先生やTA、そしてSAもすぐ近くに居るので、何か質問があればいつでも尋ねることができます。その上、フランス語の放送 TV5 も見ることができます。大いに活用されたい！

■ チャレンジ

以下のフランス語能力資格試験・能力認定テストを積極的に受けることを奨めます。

(→ 日程などの詳細はフランス語研究室HPにリンクしてあるウェブサイトへ。)

- DELF/DALF → DELF B1合格へ！
- 仏検(実用フランス語技能検定試験) → 2級合格へ！
- TCF(フランス文部科学省認定フランス語能力テスト) → 300-399 点！

2012 年 9 月

慶應義塾大学SFCフランス語研究室